



## カウンセリングルームだより

Vol. 19 (2009年2月発行)



### 不妊症治療の現場における性の相談

カウンセリングの中で、「セックス」に関する相談はかなり多くみられます。

♡「セックスがうまくいかないんです」

☆「うまくいかない」というと…？

- ・勃起障害 or 射精障害 or 性交疼痛症 or 膣けいれん or 性欲低下 or 性嫌悪 or セックスレス…

☆いつから？

- ・初めから or 結婚してから or 治療を始めてから or タイミング療法を始めてから or 体外受精に進んでから or 夫婦の問題が発生してから…

☆どうしたい？

- ・直したい or 直して自然妊娠したい or とにかく子どもがほしい or 不妊症治療と並行して考えたい or まず治療その後考えたい or 子どもができれば解決する…



性の問題はとてもデリケートです。人にはなかなか相談しにくいですし、診察室で医師に伝えるのも大変勇気がいることです。

大切なことなのに、日本では、性の問題を扱う専門家が非常に少ないのが現状です。生殖心理カウンセラーとしては、この問題に患者様と一緒に向き合いながら、メッセージをお伝えしながら、治療方針を決めるためのお手伝いができればと考えております。

生殖医療の現場では、性の問題とは切り離して治療を提供することも多くあり、それを望まれる患者様も多くいらっしゃいます。

(生殖心理カウンセラー養成講座・平山史朗氏講義参考)



## はるねクリニック銀座



### セックスレス・カップル



今、日本人のカップルのセックスレス化が深刻に進んでいます。

日本性科学会は、1994年にセックスレスを「特別な事情がないにもかかわらず、カップルが合意した性交あるいはセクシャル・コンタクトが1ヵ月以上ないこと」と定義しています。

2001年に朝日新聞社がインターネットで行った「夫婦の性、1000人に聞く」では、28.0%、厚生省労働科学研究班が実施した2004年調査では31.9%、2006年が34.6%と、我が国のセックスレス化が一段と進んでいることが明らかです。

海外との比較も歴然としています。世界の性意識・性行動調査「デュレックス・グローバル・セックス・サーベイ 2007」の結果、世界26カ国の26000人以上が参加した調査で、1年間のセックス回数が、ギリシャ164回、ブラジル145回、ポーランドとロシア143回、世界の平均は103回ですが、日本は48回と世界一のセックスレス国となっているのです。

積極的になれない理由を聞くと、「疲れている」「面倒くさい」「肉親のように思えるから」などがあげられています。不妊症治療のカップルでも、タイミング指導されてから、そのプレッシャーで性欲が低下したり、体外受精を受けているカップルでは、どうせセックスしても妊娠しないのだから、してもしようがないと考えてしまう方も多いようです。

(「本当のスローセックス～愛がいつまでも続く～」(毎日新聞社)北村邦夫著参考)

### 2月・3月のカウンセリング予定日

2月6日(金曜日)、7日(土曜日)、20日(金曜日)、21日(土曜日)

2月24日(火曜日) 不妊学級

3月6日(金曜日)、7日(土曜日)、21日(土曜日) 不妊学級

